

授業科目名	対象学科・専攻	年次	期別
算数科指導法 Teaching Methods of Arithmetic	児童教育学科 初等教育学専攻	2年次	前期
科目	施行規則に定める科目区分又は事項等		
教科及び教科の指導法に関する科目	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	教員免許状取得 必修/選択必修	担当教員名
			山根 郁夫
講義	2	選択必修	担当形態
			単独
全体目標及び概要			
<p>小学校算数科の目標、内容及び学習内容を支える数理等への理解を深めるとともに、問題解決の過程を通して、児童自らが数学的な見方・考え方を働かせながら主体的に学ぶ算数科学習指導のあり方について学ぶ。これらを踏まえて教材研究を行い、授業案を作成したり、模擬授業を実施したりして主体的・対話的で深い学びの実現に向けた算数科の実践的な指導力を身につける。</p>			
一般目標及び到達目標			
<p>(1) 小学校算数科の目標、各学年における目標、内容、領域等、全体構造を理解している。</p> <p>1) 算数科の目標、各学年の指導目標及び指導内容、指導上留意すべきことを理解し説明することができる。</p> <p>2) 算数科における各領域の構成やねらい、発展系列を理解し説明することができる。</p> <p>3) 観点別学習状況評価の評価規準及び評価計画作成の手順を理解し作成することができる。</p> <p>4) 各領域の主たる内容に係る数理的背景や数学的概念についての的確に説明することができる。</p> <p>(2) 情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、問題解決の過程を重視した算数科の授業設計能力並びに授業実践力を習得する。</p> <p>1) 学習指導理論を背景においた授業設計に必要な諸要素について理解し、説明することができる。</p> <p>2) 児童が問題意識を持って意欲的に学習し、わかる喜びを味わう算数科の学習指導を計画することができる。</p> <p>3) 児童が主体的に学ぶ算数科の学習指導の実現に向け、意欲を持って創意ある指導案の作成に取組み、作成することができる。</p> <p>4) 応答、反応に適切に対応しながら、算数科模擬授業を適切に進めることができる。</p>			

授業内容と進め方		
回数	授業内容	到達目標の番号
1	算数教育の目標と各学年における目標・内容① 1～3年	(1) - 1)、(1) - 2) (1) - 4)
2	算数教育の目標と各学年における目標・内容② 4～6年	(1) - 1)、(1) - 2) (1) - 4)
3	各領域と内容の発展系列① 「A数と計算」「B図形」「C測定」	(1) - 2)、(1) - 4)
4	各領域と内容の発展系列② 「C変化と関係」「Dデータの活用」	(1) - 2)、(1) - 4)
5	算数科における基本的な学習過程	(2) - 1)、(2) - 2)
6	主体的な学びを促す 教材・教具の工夫開発	(2) - 1)、(2) - 2)
7	主体的な学びと確かな理解を図る学習形態及び評価の在り方	(1) - 3)、(2) - 1)
8	教材研究と算数科学習指導案の作成の仕方 -3年 重さ-の事例を通して	(2) - 1)、(2) - 2)
9	教材研究及び学習指導案の作成 - 2年 1000 までの数- 協同研究	(1) - 1)、(1) - 2) (1) - 4)、(2) - 1)～3)
10	学習指導案及び教材教具の作成 - 3年 三角形-	(1) - 1)、(1) - 2) (1) - 4)、(2) - 1)～3)
11	学習指導案及び教材教具の作成 - 3年 三角形-	(1) - 1)、(1) - 2) (1) - 4)、(2) - 1)～3)
12	学習指導案及び教材教具の作成 - 5年 面積-	(1) - 1)、(1) - 2) (1) - 4)、(2) - 1)～3)
13	学習指導案及び教材教具の作成 - 5年 面積-	(1) - 1)、(1) - 2) (1) - 4)、(2) - 1)～3)
14	模擬授業の実施 - 3年 三角形-	(2) - 4)
15	模擬授業の実施 - 5年 面積-	(2) - 4)
成績評価方法	学習態度（関心・意欲・態度）30%、定期試験（知識・理解）40% 学習指導案・模擬授業（表現力・思考力・判断力）30%	
テキストおよび参考文献	算数科教材研究テキスト（新指導要領関係資料は別途プリントし配付） 文部科学省「小学校指導要領解説 算数編」平成29年6月 文科省 HP	
メッセージなど	国語に次いで、授業時数の多い教科です。教員は教えやすいと思いがちですが、児童にとっては意外と学びにくい教科です。児童の学びに視点をあて、主体的にかつ深く学ぶことの喜びを喚起する教材研究の在り方について究明しましょう。	